

人をこんなふうに

殺してもいいものか

花崎 皋平

人をこんなふうに殺してもいいものか

人は果てしない過去からの力にあずかって

天地の間に育まれたもの

どこで生まれても 子どもは子ども

殺していい子どもなんて一人もいない

殺せば二度とよみがえらせることはできない

私は たった七十年しか生きていないのに

日中戦争 アジア太平洋戦争 朝鮮戦争 ベトナム戦争

ム戦争

湾岸戦争 アフガン侵攻に会い いままたイラク

への戦争だ

子どもたちが殺され 女たちが傷つき

年寄り泣いているのを見ると

老いて弾力を失った心に ひびがひろがる

流星群のようにミサイルを降らし

ハイテク爆弾の精確さを誇りながら

指揮官はいう 戦争に誤爆はつきものと

こんな世界に生き残り続けているのは

ほかの人を身代わりしているのではないのか

生きていることで 罪を犯しているのではないのか

か

(はなざき・こうへい、哲学者)

この詩は『おたるとみおか 偶感詩片』より

